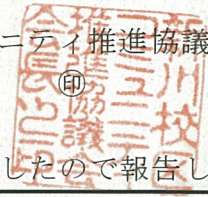


宇部市長 様

宇部市地域創生事業助成金実績報告書

団体名 新川校区コミュニティ推進協議会
 代表者氏名 山 縣 熙



平成30年6月28日付け指令宇コ共第8号に係る事業が次のとおり完了したので報告します。

事業名	「新川 絆発見ふるさとマップ」活用事業
事業の完了年月日	平成30年11月23日 (金)
事業の総括について	課題解決に特化した活動を行う3部会は新川校区地域計画によってコミュニティ推進協議会の中に組織づけられた。その3部会の中の1つ、子ども・子育て・ふるさと部会が、校区子ども会の衰退から危惧される課題解決の糸口を探るべく、本事業に取り組み、当初計画を上回る数の参加者及び、協力スタッフを得て、安全に楽しくイベントをやり終え、所期の目的を達成した。
事業の達成度について (参加人数等)	参加者：計122名 (内訳) *男性39名 女性83名 (年齢0歳～66歳まで) *小学生51名 未就学児18名 大人53名 協力スタッフ：計78名 (内訳) *地域協力スタッフ60名 *山大医学部を中心とする学生ボランティア18名 参加者は、当初の想定を上回った。 部会が企画運営し、スタッフにはコミュニティ推進協議会全体の支援が得られた。また、地元の大学から編成チーム数以上の学生ボランティアの参加があった。
助成事業等の効果について (期待した効果は得られたか)	他地区に住む祖父母も呼んで参加した3世代家族、親子1組の家族、友達同士の小学生などのエントリー。また、校区内でも高齢化率の違う南部、北部、マンションそれぞれ幅広い地域からのエントリーがあった。それらを1チーム7～9人のチームに編成したこと、学生ボランティアを安全保全員として各チームに入れたことなどの工夫もあって、この事業が良い交流の場を提供することができた。
評価や反省を踏まえた今後の展望	「校区の子ども会活動が衰退している中、地域の子どもたちやその親たち、近隣住民が子どもを中心にしてつながり、地域への愛着をより深めていける取組みを工夫する必要がある」という地域課題に対して、この事業はその解決のための糸口にはなったが、これを単発的な単なるイベントに終わらせることなく、これを契機に、小、中学校のコミュニティスクールの取組みとも相まって、地域の交流の輪を広げる地道な取組みをしていきたい。

添付書類

助成事業決算書

帳簿 (写)

その他事業の執行に必要な書類 (写真等)